

細江カトリック教会だより 3月号



〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

広島教区テーマ；平和の使徒となろう

チャレンジ新しい福音宣教 ～わたしをお使いください～

—家庭へのチャレンジ—

「上を向いて歩こう！」

2016年3月11日は東日本大震災から5年となります。この日は、大地震と大津波で亡くなられた人々を思い、また震災が与えた様々な形での被害を乗り越えて生きようとしている東北の人々のために祈る日でもあります。毎年この時期になると私はこれと似ているある出来事を思い出します。それは今から12年前のことです。

2004年12月26日インド洋でスマトラ沖大地震が起きました。地震によって発生した大津波は、インド洋に属するたくさんの国々の海岸を巻き込み、約23万人が津波の犠牲となりました。インドだけで1万5千人の命を奪ったこの津波は、当時私が哲学の勉強のために住んでいたインドの東海岸にあるチェンナイという大きな町をも襲い、大きな被害を与えました。津波が到達したとき、私は別の町にいたので津波の影響を直接受けることがなかったのですが、あとで津波から生き残った人々の話を聞く機会がありました。人々は、なぜ自分たちがこんな目に合わなければならないかと思い、神様を憎んだり、極端な場合は信仰を失ったケースもありました。

しかしその一方で、津波の被害を何とか受け止めて残された人生を生きようとする人々の姿もありました。そのうちの一人と、現地でボランティアをしていた私たちのグループが出会いました。それは津波ですべてを失った一人の漁師でした。彼は自分の

子供と妻を含めて家族全員、さらに住んでいた家、自分の漁船や仕事の道具も含めて、すべて海に流されてしまったのです。

生き残ったのは彼自身だけでした。いろいろ話しているうちに、彼は悲しみに満ちた顔をあげてこう言いました。「すべては海に奪われた。私は悲しいです。しかもすべては神様がくださったものだったと信じています。家族も子供も家も船も全部神がくれたのだ。いただいたものをすべて神に返しただけです。いつかそうしなければならないから」。目が涙であふれる中でも、これほど冷静に人生のつらい面を受け入れるこの人の神への信仰は、どれほど強いものだろうと思いました。

スマトラ沖大地震から7年たった2011年に東日本大震災が起きました。

なぜ「天罰」で罪のない人間が犠牲とならなければならないのかという質問が、ボランディアで行った東北の町や村の人々から聞かれたとき、答えることができなくて悔やしい思いをしました。しかし、悲しい現実いつまでもとどまるのではなく、「これからだよ！」といいながら、前向きに希望をもって生きようとする人々の姿もあり、自分もそこから学ぶことがたくさんありました。

「上を向いて歩こう」という歌は自分も大好きで、何度も繰り返して聞いたことがあります。この歌の歌詞のように前向きに生きようとしている東北の人々の姿を見たときに、私はある祈りの言葉を思い出しま



した。その言葉をもって終わりたいと思います。

「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。」(ラインホルト・ニーバー)

ジェームス、ボニー 神父



10年後の聖堂再建を目指して

やっと春らしい気候になりました。今月は年度末と年度始めにまつわるさまざまな出来事と同時に、聖週間と復活祭を迎えます。希望に満ちた、新しい芽吹きの時となりますように。

さて、ここで一つの重大なお知らせとお願いがあります。細江カトリック教会は、ちょうど60年前の1956年に一階が仮聖堂として建てられ、1968年に上階が増築されて現在の聖堂となりました。そのときから一階は多目的ホールとしてミサ後の集会や講演会その他の催しの場となり、平日は幼稚園の活動のために使用されています。しかし、60年の歳月が経ち、建物は現代の耐震基準を満たしておらず、南海トラフ巨大地震などに襲われたら崩壊の危険があります。しかも幼稚園の教育施設として用いているかぎり、まんいちのことがあれば、学園は法的な責任も問われることになるでしょう。

そこで、山口・島根地区長からも信望愛学園理事長からも、10年後の聖堂の再建を目指して計画を始めるように勧められています。先日の常任委員会と宣教司牧評議

会では、「聖堂再建検討委員会」(仮称)を立ちあげることと、新聖堂の位置や規模や形態などを、幼稚園の建物の再建と合わせて検討することが提案されました。

少子化と高齢化の進む中で、現在100人前後の日曜ミサの参加は10年後には80人くらいになるのでしょうか。小さくても皆が喜んで集まれる、典礼にふさわしい聖堂と設備を作るように計画しましょう。他方、幼稚園は現在以上の規模になることはなくても、地域社会に福音を発信するものとして、教会と隣接していることが望まれます。たとえば、現在の幼稚園の運動場に聖堂と教会施設を作り、下の聖堂跡地と駐車場に幼稚園と運動場を作る、というのも一案です。

10年後とはまだ先の話のように感じる人もいれば、10年後には自分もういないと考える人もいるでしょう。しかし、10年などはあっという間に過ぎます。そのための、今から建築計画と資金の積み立てを始めなければならないと思います。委員会は次世代を担う方々を中心に候補者を募りますが、委員会のメンバーでなくても、皆で考えを出しあって、新しい教会づくりの準備に取り組みたいと思いますので、どうぞ積極的なご協力をお願いいたします。

百瀬 文晃 神父

防災研修会

消防・防災について学び、

緊急時に備えよう!

2月14日(日)、下関市消防防災学習館「火消鯨」で防災研修会があり、15名の参加者で指導者の重田さんのお話を聞きました。

「皆さんは大地震が来た時はどうされますか?」・・・今回4名が体験。地震が来たらテーブルの下に逃げ、脚につかまり揺れが治まるのを待ってから行動しました。非常時持出袋を背負っていく人、

逃げ道を確保し誘導する人、そして私は火を消し、元栓を閉めブレーカーを落とし、給湯器のスイッチを切って逃げることをしました。ブレーカーを落とすこと、元栓を閉めることは思ってもいませんでした。

非常時持出袋に何を入れておくか？
水・食品・懐中電灯・ラジオ・ロープ・常備薬等・・・たくさんありました。

また、下関は土砂災害危険個所が多いとのこと。市から配布されたハザードマップを見て確認しておくといいと思います。日頃の備えと早めの避難を心掛けておこうと、今回改めて思いました。

竹中 和美



*火消鯨館ではハザードマップや非常時持出袋等の詳しい情報が展示しています。ぜひ、ご家族で見学してください。



四旬節黙想会 2/14

「生と死」 金 ヨンス神父

(広島教区倉敷地域共同宣教司牧チーム)
先週の「聖書と典礼」の表紙絵「主の変容」



では、弟子たちが倒れて顔を覆っていた。今日の「出エジプト記」でもモーゼが神を見ることを恐れて顔を覆っている。ひとの不安の根本は死

である。死をタブー視し、死を見たくない。死は解決できない大きな問題である。

映画「おくりびと」の主人公はチェロ奏者を失職し、望まずして納棺師になってしまうが、死を受け入れられない。死をタブー視し、死を見たくない。生は正、死は不正であり、生の瞬間がすでに死と向き合っていることがわからない。

キリスト者は死をどう受け入れるか。

赤ちゃんは誕生のとき全身で泣く。苦しみ、痛みを受け入れて出てきた赤ちゃんの命は周りの人々に喜びを与える。この境界線を越えた体験なくしてもう一度生かされることはできない。これが本当の秘跡。秘跡は死を意味している。洗礼は今までのすべてを洗い新たにす。死によって新しくなる。聖霊によって新しくなる。死という瞬間をどう受け入れるかによって、人の人生は変わっていく。

また赤ちゃんは生まれるとき人の両手を必要とする。手は信仰。納棺師はメイキャップで死を飾ることによって死を受け入れていく。受け入れたとき周囲の人々の顔が変わった。笑う人、泣く人、思い出す人。主人公はチェロを弾きながら記憶を今の瞬間に再現する。まさに秘跡。死を記念するミサ。仕事である死を受け入れ、父の愛を受け入れ、戻って来た妻が「夫の仕事は納棺師」と受け入れる。死んだ父の手に握られていた石文を、みごもった妻のお腹の命に伝えたとき、まさに生と死がひとつになった。

四旬節、私たちはイエス・キリストの受難と死と復活を記念して集まっている。洗礼者ヨハネが叫ぶ声が荒野に響く。私は周りの人にどう叫ぶのか。赦しの秘跡を受け、深いところにおさめている痛みを神様の前にさらけ出して、境界を乗り越えていこう。かぶっていた仮面をぬいで、慈しみの顔になって復活祭を迎えよう。

(文責) 菊野 清一



★ 黙想会第二講話は、映画を見ての分かち合いと神父のお話。

日曜学校へのご案内

日曜学校の人数は名簿上10人前後ですが、まだ顔を見たことがない子どもたちがほとんどです。

教会に来ることができない理由はたくさんあると思いますが、たとえば、クラブ活動、塾通い、地域活動への参加、また両親が働いているため等、親も子どもも、本当に忙しい日々だと思います。家庭の中での対話、祈り等をどの様に行っているのでしょうか。

このような状況の中で、どうしたらよいのかと私たちは日々頭を悩ましています。

今、日曜学校ではハツラツとした若いリーダー2人と、自称若いと思っているシスター(?)が、毎日曜日、首を長くして待っています。きっと楽しいことを見つけられると思いますよ。来れる日曜日にぜひ遊びに来てください。待っています。

日曜学校担当 内藤 初子



行事予定

- ★ 3月 4日 (金) 13:30
世界祈祷集会
会場；日本福音ルーテル教会下関
- ★ 3月 6日 (日) 9:00
宣教司牧評議会
- ★ 3月 11日 (金) 14:30
東日本大震災の祈りの集い
- ★ 3月 13日 (日) 大掃除と
大掃除後に拡大典礼委員会
- ★ 3月 20日 (日) 受難の主日
- ★ 3月 24日 (木) 19:00 聖木曜日
- ★ 3月 25日 (金) 19:00 聖金曜日
- ★ 3月 26日 (土) 20:00 聖土曜日
- ★ 3月 27日 (日) 復活の主日

東日本大震災の祈りの集い

わたしたちは

忘れない!

3月11日(金) 14:30
細江カトリック教会 聖堂

- ★ 大震災から5年経ちます。この大震災によって家族や家や仕事を失い、今もなお苦しい生活を送っている人々、原発事故によって故郷に帰れず、不安な日々を過ごしている人々がいます。

私たちは忘れない。

わたしたちはわすれない!